

提出の場をいろいろ変えてみる

物語の漢字が、前後の関係で読めるようになったら、その漢字をカードにして、子供たちの認識をさらに深めるようにしましょう。

物語の漢字は、物語の中では読めても、カードで出されると読めなくなることがよくあります。どこで、どんな形で出されても読めるよう、認識を深める工夫をしてやらなければなりません。

ある有名な学者の話ですが、ある日、駅で会った人から声をかけられたが、確か見覚えのある顔だと思っただけで、だれだか思い出せない。気になっていたところ、翌日、隣の庭でその顔を発見した。「何だ。お隣のご主人だったのか。」というわけです。

いつも隣というきまりきった状態で会っていたのに、思いがけなく異なった場所で会ったために思い出せない、ということはよくあることです。結局、隣という条件を頼みにして認識を深めることをしなかったためです。

漢字の認識を深めるためには、提出の場をいろいろ変えてみる必要があります。